

薬草とお茶づくり推進大会

～春日地域の活性化を考える～

「春日の薬草とお茶づくり推進大会」が2月16日(月)、春日振興事務所で開催され、1000人の参加者が特産の薬草やお茶を活かした地域の活性化について意欲を高めました。

春日地域では学識経験者と住民らが、春日地域で調べた研究成果を伝える春日活性化委員会を月1回実施しており、この日は、研究期間2年間の総まとめとして地域住民に報告しました。

委員の森林文化アカデミー講師らが「春日のお茶の伝統的特徴」「春日のスローライフから持続可能なデザインを考える」と題して講演したほか、委員長の岐阜薬科大学水野瑞夫名誉教授が、春日の薬草の現状と今後のあり方と春日茶の化学的特性と効能について報告しました。

また、昨年「味の箱舟」に認定された沢あざみについても春日沢あざみクラブから報告がありました。



▲水野瑞夫委員長の報告

豊年祈願祭 谷汲踊

～五穀豊穡を願って勇壮な舞～

豊年祈願祭(谷汲踊)が2月18日(水)、谷汲山華厳寺周辺(谷汲徳積)で行われ、多くの見物客で賑わいました。

岐阜県重要無形民俗文化財第1号に指定されている谷汲踊は、源平合戦で源氏の勝利を祝った踊りが起源とされ、約800年の歴史があります。現在は、五穀豊穡や無病息災を祈る踊りとして伝承され地域の人たちに親しまれています。

鳳凰の羽を模して作られた長さ4メートルの鮮やかな竹製の「シナイ」を背負った踊り手が胸に抱えた太鼓を打ち鳴らすこの踊り、勇壮な姿が、写真愛好家に人気で、この日も盛んにシャッターを切っていました。



▲仁王門前での披露

文化講演会

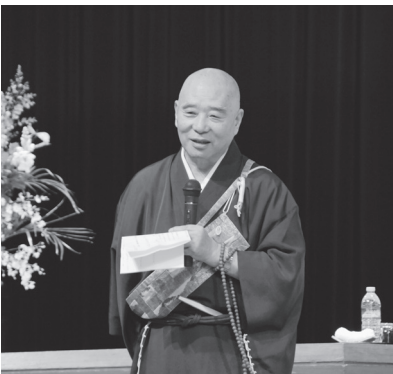
～薬師寺山田管長が説く～

2月21日、中央公民館で合併10周年記念事業の文化講演会があり、法相宗の管長でユネスコ世界遺産に登録されている薬師寺(奈良市)管長の山田法胤さんが「新しい歳を迎えてこれからの生き方」と題して講演しました。

本巢市(旧根尾村)出身の山田さんは、昭和31年に入山し、執事長、副住職を経て平成21年に管主に就任、各地での講演や数々の著書なども出版するなど幅広く活躍されています。

山田さんは、訪れた町民700人に対して「千支の羊に因んだ話や、人づくりの大切さ、家族の絆や子どもへの愛情の大切さ」を独特の語り口とユーモアで伝えました。

また、講演を終えた山田さんにさざれ石や、特産のお茶やお米が贈られました。



▲薬師寺 山田法胤さん

IBIGAWAフリーマラソン

～700名が快走～

2月22日(日)、揖斐川健康広場(上南方)周辺をコースに「第28回IBIGAWAフリーマラソン」(町体育協会・町教育委員会主催)が開かれました。

エントリー種目は男女別に一般・中学生・小学生の部と家族全員でゴールすることが条件のファミリーの部の7部門があり、だれもが気軽に楽しめます。

また、この大会は岐阜清流駅伝の選手選考大会にもなっているため、郡内のトップ選手の参加も年々増えています。今年も約800名の参加があり、のどかな田園の中を軽快に走り抜けました。

沿道からはランナーに温かい声援が送られ、全員がゴールしました。※各部門上位入賞者を今号13ページ「生涯学習の広場」に掲載しています。



▲勢いよくスタート